

田中裕規 議員レポート

2018年 4月号 No.4

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

4月に入り新年度が始まりました。今回は、平成30年度の予算審議結果も含めて、2月27日～3月20日で開催された平成30年第1回三原市議会定例議会の状況報告と活動状況をみなさまにご報告致します。

1. 三原市の目指す方向（平成30年度予算から）

平成30年度の三原市一般会計予算額は476億7800万円と昨年度に比べ20億100万円（4.4%）増加しています。これは、**次世代に夢をつなぐ積極的な予算編成**で、これまで放置されていた大きな課題を、合併特例債*（期限：平成32年3月）を活用して順次解決していく大型投資を **含んでいます**が、**将来の三原のためには必要な投資**と考えます。（予算概要は広報みはら4月号を参照ください。）

三原市の財政状態を心配される方もいますが、決して悪い状態ではなく、広島県の12市の中では中位の財政状態と言えます。財政状態をより良くしていくためには、**税収を上げていく**必要があり、**産業経済の活性化、人口の減少対策等の施策**が必要です。今年度はこれらの施策も盛り込まれていますが、より有効的な施策になるように目を光らせていきます。

*合併特例債：平成の大合併による特例的に起債できる地方債で、国が返済の70%を負担します。発行期限は合併から15年となっており、三原市は平成17年3月に合併しているため平成32年3月が期限となります。（現在、国会では期限延長が審議されようとしています。）

2. 3月定例議会総括質問で問う

3月の定例議会では、総括質問で「観光のまち三原」実現のための取り組みについて質問を行いました。一定の成功を収めた築城450年事業後の取り組みは重要な課題と考えています。

以下に、総括質問の概要を示します。

（1）「観光のまち三原」実現のための取り組みについて

①人口減少やインバウンド（訪日外国人）需要の高まりなど環境変化により、観光振興組織を再編成する動きがある。本市の観光課や商工振興課、観光協会や商工会議所の連携体制はどのようになっているのか。

【答弁】観光協会は観光案内の総合窓口として、また観光資源を生かした事業展開や市内各観光事業者の受け入れ機能の役割を持つ。観光課は観光振興の推進計画を作成し、認知度向上のための情報発信、各種イベントの側面支援、観光施設の整備や管理が役割である。

観光課と商工振興課や商工会議所とは三原食（タコ・地酒・おやつ）のブランド化推進事業で連携を図り、観光誘客や観光消費の拡大に取り組んでいる。

②広島県を含む瀬戸内7県で設立された「せとうちDMO」との連携はどうなっているのか。

【答弁】外国人観光客をターゲットに、瀬戸内ブランドの確立を目的に設立されたが、本市はオブザーバー参画である。昨年9月に開設された多言語による瀬戸内海航路情報サイトにはラビットラインが紹介されている。

今後、本市の観光資源が瀬戸内の代表コンテンツとして海外に発信されるよう連携を図り、外国人観光客の本市への誘客に取り組んでいく。



三原市議会議員
田中ひろき

◇ プロフィール

1959年8月9日生

東京農工大学工学部

大学院卒

元帝人㈱社員

家族構成

妻と息子3人

◇ 連絡先

三原市港町三丁目

16番13号

携帯 090-7137-0440

FAX 0848-64-8911

- ③全国でも稀な本丸の中にある三原駅を、JRと本市で連携して 駅構内や通路を城郭風に装飾し、「駅は本丸の中」「駅直結の城跡」「電車を降りると観光地」などをキャッチフレーズに、インスタ映え（見栄えが良い写真投稿）する駅として観光客を誘客する取り組みをはいかがでしょうか。



【現在の天主台跡入口2階踊り場】

【答弁】 駅構内から天主台跡入口が分かりづらい、また暗いなどの意見があり、JR三原駅と協議し、装飾や空きスペースへの資料展示などを進めている。駅利用者を三原城跡へ誘引し、さらには駅周辺の神社仏閣や本町通り等へも訪れてもらうなど、来訪者の滞在時間を延ばす仕掛け作りを考えていく。

3. トピックス

◆ 不燃物処理工場移転新設について

現不燃物処理工場の老朽化、非効率な配置等の課題の解決を図るため、三原広域市町村圏事務組合の事業として、不燃物処理工場を移転新設する計画が進んでいます。総事業費は約29億7千万円で、循環型社会形成推進交付金9億1千万円を差し引いた額を三原市と世羅町が負担します。三原市の負担金の財源は、過疎債・合併特例債・大規模事業基金・一般財源で、約7億6千万円が実質の負担金となる計画です。大型投資となりますが、合併特例債を活用した事業となります。平成32年からの供用開始を目指しています。

◆ 高坂自然休養村リニューアル事業

高坂自然休養村管理センターの機能アップ改修が4千20万円の投資で実施されます。体験型プログラムの実施や飲食営業に対応した機能アップ改修で、トイレ・厨房・食堂・会議室・ホール等が整備され、年間を通じた集客実現のための拠点となる予定です。

4. 活動報告&お知らせ

(1) ペアシティ西館1階テーブルショップスタート

駅前の人通りを増やす取り組みとして、ペアシティ1階南側空きスペースで 自分の作った作物や雑貨、身に付けた技術などを、1日単位で短期間出店可能な仮店舗で販売にチャレンジできるマルシェ（市場）を企画しました。少ない投資で始められ、コストを意識せずにチャレンジできます。

出店者を募集しています。 興味のある方は、お問い合わせください。

（お問い合わせ先：ペアシティ三原共有床運営株式会社 TEL 0848-64-5559 月～金 9:00～12:00）



(2) さぎしまデイサービス新規事業者による継続決定

佐木島のデイサービス指定管理者の撤退の意思表示により、存続に向けて市内外の事業者へ本施設運営の意向調査を行ってきました。大変厳しい状況の中、福山市を本拠地とする「特定非営利法人地域の絆」のみ施設運営の意向提示があったため、指定管理者として平成30年度より委託することになりました。島内の対象ご家庭の方は、利用促進をお願い致します。



(3) さぎしま須ノ上港へ簡易水洗トイレ設置

尾道～瀬戸田航路の寄港地の須ノ上港には公衆トイレがなく、徐々に増えてきている尾道からの観光客のための公衆トイレ設置を要望してきましたが、3月に簡易水洗トイレの設置が完了しました。観光の島へ向けてのインフラ整備を、今後も継続して進めて行きます。



5. あとがき

新たな年度が始まりました。本年度の予算編成や市役所組織の一部変更などから、行政が積極的な自治体運営の姿勢に変わりつつあるのを感じます。私が1年間必要性を訴えてきた三原市のシティプロモーション（自治体の営業活動）も担当幹部を設け、本格的に検討していくことが決まりました。これからは選ばれる自治体を目指すことが必要で、他自治体には無い特色を持った自治体に変えていくことが重要と考えます。私は、これからも積極的に新たな発想やアイデアを行政に提案し、特色ある三原市に変えていくための活動をしていきたいと思っております。